



XR CITY LAB

Since Decenber 2021/12



VISION

ウェルビーイングな未来都市をXRで実装する。

XRがもたらす未来の都市生活は、すぐ近くまで来ています。世界各地でスマート・シティ・プロジェクトが進行しています。シンガポール、フィンランド、日本のPLEATEUプロジェクトはじめ、街の3Dデータ化が急速に進行されています。これらは都市のDXを推進し、AIによる自動化、最適化により、都市の課題の解決、経済の活性化を目的としています。XR CITY LABでは、こうした世界の潮流を踏まえ、テクノロジーにより未来都市をアップデートしていきます。

しかし一方で急速なテクノロジーの進化は、さまざまな危険性も包含しています。フェイクニュース、フィルターバブル、超格差社会、巨大IT企業による超監視社会化など。2016年に公開されたKeiichi Matsuda氏の HYPER-REALITYでは、現実世界に多重に貼り付けられたAR広告や、ARでカムフラージュした通り魔に襲われる表現が、ディストピアなXR Cityの象徴的イメージが話題になりました。

それゆえ、XR CITY LABでは、単なる経済成長のための都市DXではなく「**ウェルビーイングな未来都市**」をテーマに掲げ、挑戦しています。

COMMONS

XR CITY LABでは、**XRによるデジタルなコモンズ**を都市に実装していきます。都市がミラーワールド化（3Dデジタル化）することにより、無限の新しいコモンズが生まれます。コモンズとはかつてのイギリスの近世の共同牧草地を表す言葉でした。日本でも、入会林野というものがありました。山林を地域住民が、話し合いを通じて、乱獲や乱伐を防ぎ、管理していました。これは、住民が共同で管理し、環境を保護しながら、収益を人々に分配し、コミュニティ全体の豊かさを増進し、協働的な結びつきを高める仕組みです。しかし貨幣経済の発展と共に「土地」は私有地化し、コモンズは失われていきました。

XRは、都市をミラーワールド化（デジタル化）することにより、新しいコモンズ（共有地）を無限に生み出すことができます。また、ARグラスが普及していない現段階では、地域SNS+ 仮想通貨による「デジタル・コモンズ」の生成に取り組んでいます。（1-anotherプロジェクト）

The commons is a common pasture in pre-modern England.

iPhone -> Apple Glass ?



AppleGlassについて公式発表が出ました。スマートフォンがARグラスに置き換わっていくとされています。

そのときに向けて、XRや先端テクノロジーによる街づくり、プロジェクトをはじめました。



VALUE

Neighborhood

ネイバーフッドを再生する

ネイバーフッドの価値とは、自然資本、社会関係資本、共有生産手段、共有地など場所に根ざしたコミュニティー的な価値のことを言います。社会関係資本ともいいます。**ネイバーフッドは人々のwell-beingのために重要な機能を担っています。**近代以降、資本主義は都市への極度な人口集中を招き、地域のネイバーフッドを衰退させました。場所に紐づいたテクノロジーであるAR、地域SNSにより、このネイバーフッドを再生します。

共有

共助

共創

共有地

自然資本

Conviviality

自律分散化

現代の世界規模のプラットフォームの中央集権的な力を、より民主的で分散されたものにするには、今もっとも求められていることのひとつです。新自由主義の浸透によってもたらされたグローバリズム、web2.0的なITプラットフォームは、コロナ禍やウクライナ戦争に起因する物流や情報の分断を生み出し、世界を危機的な状況に追い込んでいます。ブロックチェーンにはじまるウェブ3.0は、自立分散化のための技術として期待が寄せられています。**ネイバーフッドの再生は地域の自立分散化です。**XR CITY LABでは、ブロックチェーン、AR、地域SNSによって自立分散化を目指します。



Sustainability

サステナビリティを拡張する

街を仮想化することは、省資源に貢献します。常に消費され変化する屋外広告やサインを仮想化すれば、街の景観を美しくし、省資源化に貢献できます。また地域にコモンズが再生されることで、地域内でのシェアリング、リユースが促進され、サステナビリティに貢献します。

それは同時に、非破壊的な開発、美しい自然や街のオーセンティシティを守ることもつながります。



Diversity

多様性を拡張する

中央集権的な行政システムは、地域の独自性や多様性を衰微させ、画一的な景観を生み出してきました。テクノロジーもまた効率化を進めるあまり、画一性を高めてしまう傾向があります。場所に紐づいたテクノロジーであるXRは、多重化された情報レイヤーによって、多様化を推し進めます。ネイバーフッドの活性化や自立分散化自体による commons の拡張は、地域の独自性、多様性を拡張します。



PROJECT

PROJECT

1-another

1-anotherとは、help one anotherの意味。地域の人々がお互いに助け合う、という意味。
「地域SNS+地域仮想通貨」により、地域ごとに豊かな commons を再生し、分断と格差を緩和します。

1-anotherでは、GPSベースで半径数100m～数Km以内の人々をつながりを作成し、日常的なタスク、食材、衣類、いらなくなった家電や家具、使っていない道具や車など、地域の遊休資産を共有します。エリア内での仮想通貨による交換を通じて、人々の助け合うつながりを作成します。

地域仮想通貨

価値交換のために仮想通貨を人々に発行、給付します。これは投資や投機のためではなく、生活物資の交換のための実体経済のためのコインです。お金がなくても、共有によって基本的な生活が守られることを期待します。

グローバリズムから地域コミュニズムへ

地域を自律分散化した無数のコミュニティーに再構成することは、グローバリズムの脆弱性から、人々を守ることとなります。「人新世の資本論」斎藤幸平氏の言うように、世界同時金融恐慌が起きつつある今日、地域コミュニズムの再生は急を要しています。



Detail

PROJECT

未来コモンズ

「家たちプロジェクト」は、神戸市須磨区板宿エリアで進められてきた古い民家をリノベーションし、共生のためのコモンズを生み出すプロジェクトです。街の人々のつながりを生成し、共助機能を高めるための共有スペースを持つ「家たち」が多くつくられてきました。本企画では、「家たち」が持つ開かれた共有スペースに、XRや地域SNSを実装し、コモンズ（地域コミュニティー）の再生を促進します。これは、現在進行しつつある高齢化、過疎化、分断化の時代に、まちを蘇生させるプロジェクトです。

スマートフォンや、ARグラスをそれぞれの「家たち」にかざすと、ユーザーインターフェイスが表示されます。ここで行われるイベント情報にアクセスしたり禅昌寺の地域SNSにログインができます。また、来訪者は、ここから地域の人々につながっていくこともできます。

Detail

MIRAI
COMMONS
ZENSHO-JI

About me

Event Schedule

Join SNS



Prototyping/Art

ARによる未来の都市開発の可能性を探る、
メディアアートプロジェクト

Symbiotic City (共生する街)

ART PROJECT

Environment data
Sensing point2

Environment data
Sensing point4

Environment data
Sensing point6

Environment data
Sensing point7

神戸市の旧居留地エリアに、ARによる巨大かつインタラクティブな有機的な光の建造物を現出させます。一つ一つの点は、生命体を現しており、その有機的な繋がりが、自然界の調和と共生のダイナミズムを生み出しています。

このエリアの複数ポイントに設置した環境データ（温度、湿度、風向き、風力、酸素濃度、匂い）と、ヘッドマウントディスプレイをかぶったユーザーによるインタラクションによって形状や色が自在に変化するバーチャル建築が共創されます。

これらは、環境と人との相互作用によって生まれるインタラクティブな建築です。環境要素も、生命（マルチスピーシーズ）と捉え、環境と街と人と共生する形を模索します。

今日の人間中心主義的な思想には、自然や動植物を人間の従属物と考える思想が根底にあります。それが、今日の世界の環境問題を生み出してきました。未来の建造物は、自然界にとっても、人間にとっても、サステナブルであることが求められます。

VIDEO

Breathing

ART PROJECT

目に見えない大地の呼吸（神戸の六甲おろし）をARグラスで体感するプロジェクトです。地球の大気と街との相互作用によって生まれるカタチを流体シュミレーションによって生成し、ARによって空間に再現します。ARグラスをかけて、ゆっくりと呼吸するかのような美しい大気の流れの中に身を委ねると、ガイア（地球生命）を感じることができます。サステナビリティという言葉をよく聞くようになってきたものの、それは人類にとっての持続性という意味であり、地上の生命種全体としての持続性ではありません。人間以外の生命の存在（マルチスピーシーズ）を感じることは、本当の持続性に通じています。このプロジェクトは、人間と自然の共生のためのイメージーションを拡張してくれます。

テクノロジー化した都市において自然を感じることは難しくなっています。環境破壊が進んでしまうのは、人間が自然の息遣いを感じることができなくなってしまったことも一因かもしれません。もともと都市も自然の一部。そこにも自然は息づいています。それを感じ、共生感覚が芽生えれば、過剰な経済成長が人間自身にとってもリスクであることを直感的に理解することができるかもしれません。

ARは、現実の空間を3Dスキャンし、現実世界にピッタリと重なったミラーワールドを生成します。それは、新しいコモンズ(共有地)と言えます。近代合理主義以降、自然は人間の所有物になりましたが、本来自然は、全ての種にとってのコモンズです。

VIDEO

Resuscitation (蘇生) / AR Graffiti

ART PROJECT



浅井宣通は、2022年10月、パキスタンの首都カラチで実施されるKarachi Biennale 2022に正式招待されました。

パキスタンのリアリという街は、カラチで最も多様で古い地区のひとつです、豊かな歴史を持ち、民族・政治的な対立と都市の疎外があった場所であり、多くの芸術と抵抗が生まれた場所でもあります。

このリアリにはギャングの抗争の時に付けられた銃痕が至る所にあります。体験者は、その建物の前にARグラスを装着して立ちます。すると、かつての銃撃戦のあった建物の痕跡から芽が伸び、花が咲き始め、やがて建物全体が花に覆われていきます。荒廃した場所からも生命は、芽を出し成長し、やがて花を咲かせていきます。それは生命の持つたくましい蘇生の力です。それは暴力が支配する今日の世界を変える力です。

建物にペインティングするグラフィティの手法は、パブリックな場所にメッセージを刻み込む、という意味を持っています。この作品においても、ARによるグラフィティはデータですが、「その場所の3Dデータ (=ミラーワールド)」と一対一で紐付いています。そのため誰でもいつでも、この場所で、半永久的にこのイメージにアクセスすることができるパブリックアートとしての意味を持ちます。

街の持つ歴史的なコンテクストを文化的に拡張もしくは転換する。それも未来都市におけるXRの可能性の一つです。

Detail



Nobumichi Asai

CEO/Creative Director

東北大学理学部卒業。東京のCM制作会社PICS、デザインスタジオWOW incを経て、2021年12月、XR(VR/AR)を未来都市に実装するXR CITY LAB を創業。クリエイティブ・ディレクター、アーティスト、プログラマーとして活動。これまでintel、ソニー、Honda、花王、Canon、SoftBank、SUBARU、三菱地所 etcなどのブランディングを数多く手掛ける。またレディーガガ(US)、ジェイコブ・コリアー(UK)などのグラミー賞アーティストとのコラボレーションなどで国内外で知られている。

ベネチア国際映画祭Best of VR、文化庁メディア芸術祭受賞。VFX AWARD最優秀賞受賞。アルスエレクトロニカVFX部門受賞、Short of the year/Best of Experimental(Germany)受賞、Lion Film Festival(UK)/Best Experimental、Most Orijinal受賞など数多くの受賞歴を持つ。

デザイン思考より、アート思考。普遍的でグローバルな地球を変えるサービス創造を目指しています。

PRIVATE

DEMO REEL <https://is.gd/J3Y67E>

RESUME <https://is.gd/6qL4si>

PORTFORIO SITE www.nobumichiasai.com

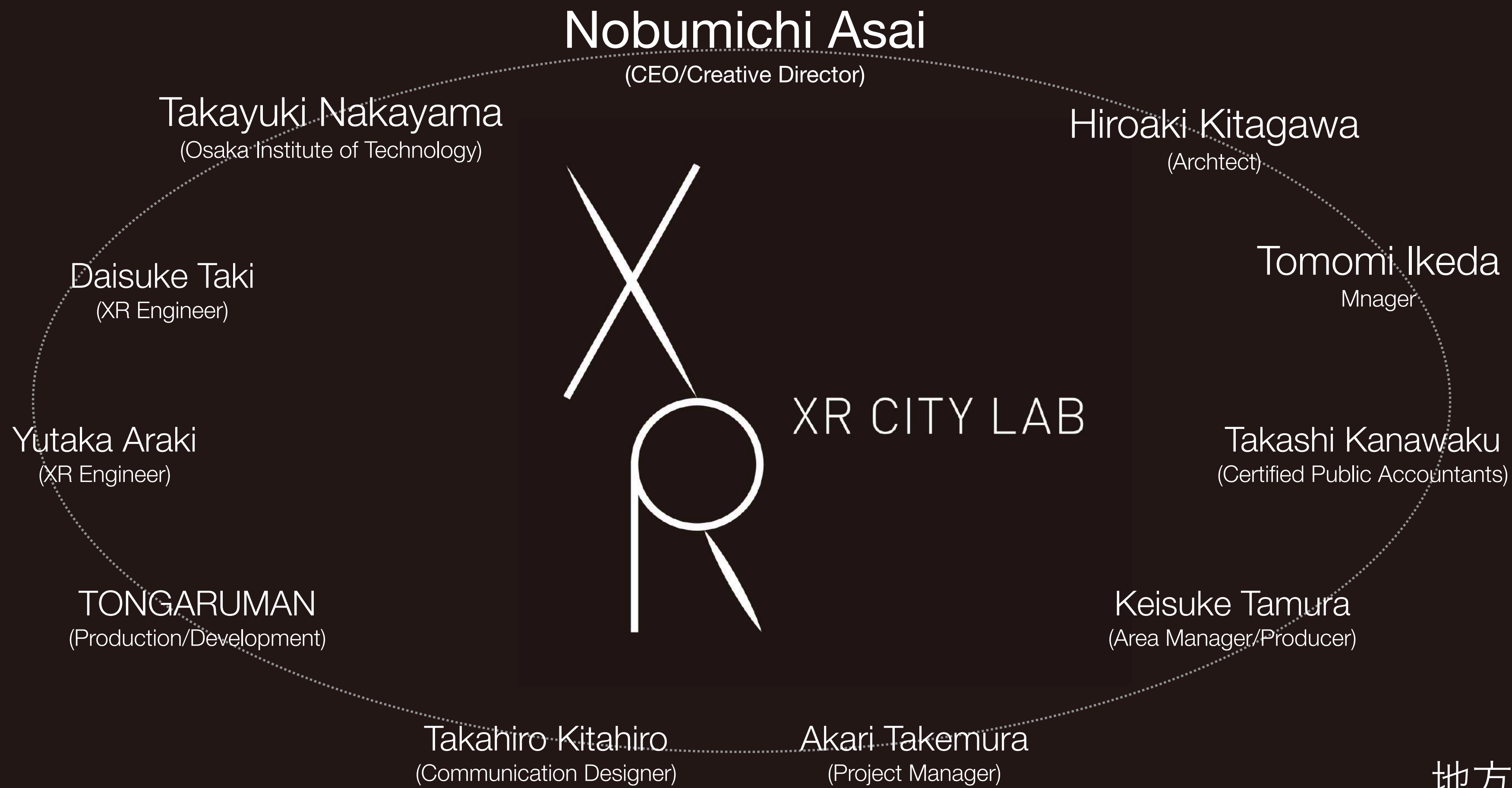
FACEBOOK <https://www.facebook.com/nobumichi.asai/>

XR CITY LAB

OFFICIAL www.xr-city-lab.com

FACEBOOK <https://www.facebook.com/xrcitylab/>

Collective



CEOの浅井を中心に、建築家、コミュニケーションデザイナー、プロデューサー、ライター、外部開発会社、研究者などのさまざまな外部ブレインとのコレクティブとして活動しています。プロジェクトベースで集合離散し、収益をシェアリングするDAO的な組織です。